

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者 の意見		
安心・安全な学校づくり	【環境課】 地域や行政と連携した避難訓練を実施し、防災対策の充実を図る。	評価指標 ①大規模災害に備えて地域と合同の避難訓練を1回以上実施する。 ②地震・火災・土砂災害の防災訓練を年4回以上実施し、事後アンケート結果を元に見直しが必要な箇所については、その都度話し合い、結果を全体に周知する。 ③防災について生徒主体で行える活動(砂防ダム見学、消火訓練、起震車体験、防災食の調理試食等)を2回以上計画実施する。 ④職員研修として、消火栓使用についての研修を行う。 活動計画 ①地域の役場や隣接する施設と連携して合同の避難訓練を計画・実施する。(9月) ②年4回の避難訓練を計画・実施し、事後アンケートを行う。事後アンケートをもとに、改善点を話し合い、結果を全体に周知する。(5・9・11・2月) ③課会で本年度行う活動を決定する。関係機関等と連絡を取り合いながら計画実施する。 ④関係機関等と連絡を取り合いながら計画実施する。手順を撮影し、共通理解ができるように記録しておく。(7月)	評価指標の達成度 ①近隣の地域と施設と合同の避難訓練9月に実施することができた。 ②避難訓練を、5月、9月、11月、2月に実施した。事後アンケート結果もその都度見直し職員会議で周知することができた。 ③5月の避難訓練後、砂防ダム見学を行った。起震車体験を1月に実施予定し、2回の活動を行うことができた。 ④夏季休業中に、関係機関を招いて消火栓の使用方法等の実践研修を行うことができた。 活動計画の実施状況 ①地域の役場や隣接する施設と連携して合同の避難訓練を計画・実施することができた。アンケート結果と改善点等を職員会議で周知することができた。 ②5月、9月、11月、2月に避難訓練を実施した。計画・実施にあたって、課員と話し合い、計画を立て、事後アンケートについても結果を話し合い、職員会議において全体に周知することができた。 ③課会でそれぞれの役割を話し合い、必要に応じて関係機関等と連絡調整し、避難訓練や消火栓使用研修等を行うことができた。 ④7月の消火栓使用研修については、関係機関と連携して行い、また手順を写真に取り、環境課のフォルダに記録として残した。	総合評価 (評定) A (所見) 課会で様々な想定 の避難訓練に向けて計画し、実施した。毎回アンケートには改善点等の意見があり、見直しを重ね、全体に周知することができた。	・色々な想定をして、学校で工夫して取り組まれている。今後も継続して行ってほしい。 ・町の防災研修に参加した生徒が被災地を訪問したときの様子をまとめたものを発表する機会を設けてほしい。	避難訓練については、負傷者を設定したり、実施時間を周知しなかったりと色々なバリエーションで行っている。次年度も同様に行っていきたい。 放送はないため、教員の声かけて避難になるが、なかなか声かけができないのが課題である。放課後等に児童生徒不在で、教員のみ避難訓練を実施するか検討中である。
	【生活課】 児童生徒、教員一人一人の人権意識が高まるような授業づくりの推進をする。	評価指標 ①各学部で人権教育年間計画を作成し、日々の授業に人権教育の視点を取り入れた学習を行う。 ②毎月設定している「校内人権の日」において、教員や保護者に年2回資料を配付し、人権意識の啓発を行う。 ③児童生徒会活動として、みなみ・にこにこ人権フェスティバルに参加し、地域の人にひわさ分校について知ってもらう機会とする。 活動計画 ①-1年度初めに各学部で、各教科での人権教育の学習への位置づけを確認し、指導の単元、ねらい等を明確にする。作成した人権教育年間計画は、学校全体で共有し活用する。 ②-1人権教育に関する資料等をポスター掲示したり、チラシを配付したりする。 ③-1みなみ・にこにこ人権フェスティバルのなかでバザー活動を行い、地域の方にひわさ分校を知って頂く機会とする。それに加えて、生徒のバザー販売を通して、地域への社会参加の機会とする。 ③-2みなみ・にこにこ人権フェスティバルに参加し、感じたこと等を児童生徒会の中で話し合い、それを紙等にまとめ、全校集会の際に発表し、人権意識の啓発活動を行う。	評価指標の達成度 ①各学部で人権教育年間計画を作成した。人権教育年間計画を職員会議で情報共有し、日々の指導にあたった。 ②人権に関する資料を年2回以上配付し、人権意識の啓発を行った。 ③児童生徒会役員が3名参加した。児童生徒が作った製品や野菜の販売活動や作品展示を通して、地域の人と関わりをもつことができた。 活動計画の実施状況 ①-1各学部の学部会にて、人権教育年間計画を用いて人権教育の指導のねらいや観点について共有し、年間目標を作成した。職員会議にて、年間目標の共有を図り、日々の指導に生かすことができた。 ②-1県から配付された資料を教員間で回覧したり掲示したりすることを年2回以上行った。 ③-1児童生徒が作った製品や野菜、花の苗を販売した。バザー活動のなかで地域の方と様々なやり取りを行い、関わりをもつことができた。 ③-2全校集会の中で、みなみにこにこ人権フェスティバルで行った活動を紹介したり、参加した感想やみんなに伝えたい大事なことを話し合い、発表することができた。	(評定) B (所見) 課会や職員会議のなかで、人権教育の年間目標についての情報共有を行ったり、教員や児童生徒、保護者において、人権教育に関する資料を配付したりすることを通して、人権意識の啓発を行った。また、みなみにこにこ人権フェスティバルに児童生徒会が参加し、地域の方と関わることで、ひわさ分校のことで知って頂く機会をもつことができた。	・みなみ・にこにこ人権フェスティバルでの分校の販売が定着している。	次年度への課題として、今年度行った教員、児童生徒、保護者への資料配付を継続して行い、内容の充実を図る。また、毎月設けている校内人権の日の活動について見直しが必要だと感じる。 今後の方策として、次年度は美波町人権教育研究大会が本校で行われるため、資料配付やホームページでのお知らせ等を通して参加を呼びかけ、多くの方に人権教育研修の機会をもってもらえるようにする。

多様性を育むキャリア教育の展開	【小中学部】 学習活動を通して、基本的なコミュニケーションスキルを身につける。	評価指標 ①個別の指導計画において、コミュニケーションに関する学期目標の内、とくに重要とする目標を各個人が1個選定し、すべてが「達成」または「ほぼ達成」となる割合が学部全体で80%以上となる。 ②個別の指導計画に関するケース会及び見直しケース会を年間5回以上行う。	評価指標の達成度 ①個別の指導計画作成において、コミュニケーションに関する学期目標の内、とくに重要とする目標を各個人が1個選定し指導を行うことができた。 前期目標の達成割合 75% 後期目標の達成割合 100% ②個別の指導計画の目標に関するケース会及び見直しケース会を5回以上行うことができた。	(評定) B (所見) 個別の指導計画の目標立案時にコミュニケーションに関する目標を設定するよう学部内で周知することで、すべての児童生徒において設定することができた。達成割合については、前期は、小学部3名が「達成」で中学部1名が「進歩あり」であり75%であった。後期は、中学部の在籍がなくなり、小学部3名が達成で100%であった。	・一人一人に応じた丁寧な指導をしている。 ・入学式に母親から離れられなかった子が、一人で学習を進めている姿を見て、やはりその子に応じた学校に就学できることが望ましいと思った。 ・小学部の学校見学时に就労の話が出てきたが、小学部段階に応じた説明が良いのではないかと。小学部の人数が増えたら、放課後の過ごし方が課題となる。児童デイがあるといいが、採算がとれず難しい。しかし、放課後の問題で諦めてしまうことがないよう、今後検討していく必要がある。	在籍している児童の実態からコミュニケーションスキルの向上は重要かつ必要性が高いものであったと思われる。各担当が児童の実態に合った目標を立て、学部全体で共有し取り組むことができた。 【次年度への課題】 ・目標としては達成しているが、場面や人など環境が変わるとできないケースもあった。 ・保護者からのニーズの聞き取りは十分にできたが、児童生徒の実態に合わせた目標設定が難しかった。 【今後の方策】 ・目標達成後、般化場面を多く設定し、行動面の強化を図る。 ・児童生徒の実態をアセスメントをもとに把握し、保護者のニーズと照らし合わせながら目標の設定を行う。 ・目標達成のための手立てを学部全体で共有する。
	活動計画 ①-1保護者懇談等で保護者や本人の将来に向けてのニーズを聞き取り、個別の教育支援計画(支援計画表)に反映させる。 ①-2個別の指導計画の学期目標にコミュニケーションに関する目標を設定する。その中からとくに重要とするものを選定し、学部で共有する。 ②-1個別の指導計画に関するケース会で目標達成のための手立ての確認をし、共有する。 ②-2指導の経過について、進捗状況等を見直しケース会等で報告し、指導について検討したり共通理解を図ったりする。 ②-3設定した目標に対する評価を行う。	活動計画の実施状況 ①-1各児童の保護者との懇談や家庭訪問を行い、ニーズを聞き取り、個別の教育支援計画に反映させることができた。 ①-2各担当が個別の指導計画の学期目標にコミュニケーションに関する目標を設定し、ケース会を通じて学部の教員に伝え、情報を共有できた。 ②-1目標達成のための手立てを学部全体で共有し、他の教員の意見を参考に修正も行うことができた。 ②-2個別の指導計画の目標に関するケース会及び見直しケース会を行い、学部で共通理解を入れることができた。 ②-3前期、後期について目標の評価や反省を部会を通じて行うことができた。	(評定) B (所見) 学年別で達成率を見ると1年生は84.6%、2年生は75.0%、3年生は、100%であった。2年生は遅刻日数の多い生徒が在籍しており、授業への参加率が低くなったことや目標を高めに設定した生徒がいたことが要因だと思われる。3年生は、目標設定も適切で、生徒自身が進路実現に向けて懸命に取り組んだためだと思われる。	・分校では個別に対応してくれて、目に見えて成長したと感じる。就業体験の後期は休まずに参加できた。	卒業後の進路先や生活を見据えて学習することは、3年間の学習のなかでも、とくに大切であり、就業体験実習は重要な部分を占めている。卒業後の進路に一般就労や福祉的就労を視野に入れている生徒は、施設や事業所から求めらるべき「社会から必要とされている力」を当然身につけなければならない。本年度は前期就業体験時の現場実習・施設実習に参加した就労継続支援B型以上の進路を希望する生徒6名全員が自分の課題として後期の就業体験の目標に入れることができた。 今後も生徒自身が課題に気づき、早い段階から自分のこととして、主体的に取り組むことができるように指導しなければならぬと考える。 高等部の目標は「社会生活に必要な力を育て、自分らしい生き方を見つける」としている。今後もこの目標を達成していくために生徒一人一人のニーズに応じた教育活動を実践していかなければならないと考えている。	
	【高等部】 卒業後の進路先や生活を見据えて、自分の課題に気づいたり、目標達成に向けて主体的に取り組んだりすることができる。	評価指標 ①後期の個別の指導計画作成において、前期就業体験時の課題を後期目標として、一人につき2個程度以上設定し、その評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が、80%以上となる。 活動計画 ①-1就業体験指導計画を作成し、前期就業体験実施後、各生徒について出てきた課題を部会等で共有する。(7月) ①-2個別の指導計画の後期目標に、前期の就業体験で、明らかになった課題を一人につき2個程度設定する。(9・10月) ①-3個別の指導計画の後期目標ケース会において、前期就業体験での課題が、後期目標に設定されているか確認し、支援方法について共通理解を図る。(9・10月)	評価指標の達成度 ①後期の個別の指導計画の目標に前期就業体験で明らかになった課題を一人2個程度設定することができた。生徒16名で35個の目標が立てられており、そのうち30個が「達成」「ほぼ達成」となり、達成率は85.7%となった。 活動計画の実施状況 ①-1就業体験指導計画を作成し、部会において、それぞれの生徒の取り組み状況や課題について共有を図った。 ①-2後期目標のケース会において、具体的目標を一人について2個(16人で35個)設定することができた。 ①-3後期のケース会において進路課と連携し、前期就業体験で明らかになった課題を共有し、支援方法について共通理解を図ることができた。	(評定) B (所見) 2年生は遅刻日数の多い生徒が在籍しており、授業への参加率が低くなったことや目標を高めに設定した生徒がいたことが要因だと思われる。3年生は、目標設定も適切で、生徒自身が進路実現に向けて懸命に取り組んだためだと思われる。	・卒業後の進路先や生活を見据えて学習することは、3年間の学習のなかでも、とくに大切であり、就業体験実習は重要な部分を占めている。卒業後の進路に一般就労や福祉的就労を視野に入れている生徒は、施設や事業所から求めらるべき「社会から必要とされている力」を当然身につけなければならない。本年度は前期就業体験時の現場実習・施設実習に参加した就労継続支援B型以上の進路を希望する生徒6名全員が自分の課題として後期の就業体験の目標に入れることができた。 今後も生徒自身が課題に気づき、早い段階から自分のこととして、主体的に取り組むことができるように指導しなければならぬと考える。 高等部の目標は「社会生活に必要な力を育て、自分らしい生き方を見つける」としている。今後もこの目標を達成していくために生徒一人一人のニーズに応じた教育活動を実践していかなければならないと考えている。	

<p>【進路課】 児童生徒一人ひとりに応じたキャリア教育の実践を行うことができるよう、個別のニーズに応じた学習を展開するとともに、進路に関する情報発信を行う。</p>	<p>評価指標 ①就労希望形態別の学習を年に10回以上行う。 ②中学部を対象に、進路課より「働くこと」についての学習を年1回以上特設する。 ③ホームページを活用し、進路に関する情報発信を年間12回(月1回程度)行う。 ④PTAや高等部生徒に向け、外部講師を招聘した進路に関する講演や研修を1回以上実施する。</p> <p>活動計画 ①生徒、保護者からの進路希望から就労形態別に学習グループを編成する。「職業」の時間を主として学習を行い、進路先ごとに必要とされているニーズの周知を適宜行う。 ②高等部就業体験時の校内実習や現場実習の様子を紹介しながら、どのような仕事や作業があるかを紹介する。また、働くために必要な力について説明することで、どんなことを頑張っていくことが大切かをイメージできるようにする。 ③卒業生の進路先に訪問し、作業風景や内容等を掲載したり、進路に関する行事等の紹介をしたりする。 ④PTA進路研修会にて、外部講師を招聘し、卒業後の進路や支援内容等、事例を交えた話しを聞ける機会を設定する。</p>	<p>評価指標の達成度 ①就労形態別に16回学習を行うことができた。 ②対象生徒転出により実施できなかった。 ③進路に関する情報(進路に関する行事や進路先の情報等)を12回更新することができた。 ④6月の進路研修会にて、相談支援事業所こなんの石上様をお招きし、生徒、教員、保護者を対象に研修を実施した。また、1月にキャリア教育出前授業として徳島大正銀行の野村様をお招きし、生徒を対象に授業を実施した。</p> <p>活動計画の実施状況 ①就労形態別に4つのグループ(一般就労、A・B型、生活介護、1年生)を編成し授業を行っている。就業体験の評価や施設・事業所からの要望をグループの担当教員に伝えている。 ②対象生徒転出により実施できなかった。 ③卒業生の職場へ訪問し、作業風景をホームページへ1記事アップすることができた。進路の行事として、就業体験や進路の研修等の情報を紹介することができた。 ④相談支援事業の内容を具体的な事例を交えてお話いただくことができた。</p>	<p>(評定) B</p> <p>(所見) 就労形態別にグループ編成を行い学習を進めたことで、それぞれの生徒の卒業後の生活や現状の課題に沿った指導を行うことができた。また、外部講師の講演や授業に参加することで卒業後の支援や必要な知識について、理解を深めることができた。ホームページの更新はできたが、見てもらえるような訴求には課題が残る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校には、支援を必要としている生徒がたくさんいるが、特別支援学校が進路先の選択肢に入っていない。保護者はみんな一緒のところが良いと思っている。 ・夏休みに工場見学に保護者の方と来ていたが、生徒だけで気軽に見学に来てはどうか。 ・掃除ができることが仕事内容として大切である。 ・新入生も増えたのでPTA活動も活発になればいいと思う。 	<p>今年度は、ホームページの活用や玄関に施設・事業所のパンフレット等の掲示を行い、情報発信を行ってきた。ホームページの更新については、更新のみで、その他の場所での広報はできておらず、閲覧いただく機会を増やすため、PTA総会や研修会等の進路として話をしていく場面でお伝えできるようにしていきたい。中学部生徒の転出により、進路に関する学習場を設定することができなかった。今後は、はたらく体験学習に関する学習以外でも中学部と連携しつつ進路学習ができる場を設定していきたい。</p>
<p>【支援課】 個別の事例において、児童生徒の実態に応じた指導支援を行うために、専門家による指導や助言を受ける機会を設けるとともに、校内での共通理解を図る。</p>	<p>評価指標 ①社会人講師による指導助言の内容について、学部会での報告の割合が80%以上となる。 ②学校コンサルテーション事業において各学部1事例以上取り組み、校内事例検討会を各学部2回以上行う。</p> <p>活動計画 ①社会人講師(OT・ST)の指導を受ける機会を設定し、指導後は学部会で指導内容を報告する。 OTによる指導:年間3回 STによる指導:年間3回 ②1回目のコンサルテーションまでに1回以上、1回目から2回目の期間で1回以上の校内事例検討会を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度 ①学部会における報告の割合は次の通りであった。 OT:83%…小学部 2回/3回 …高等部 3回/3回 ST:66%…小学部 2回/3回 …高等部 2回/3回 ②小学部1事例、高等部1事例に取り組んだ。事例検討会の回数は、小学部1回、高等部2回であった。</p> <p>活動計画の実施状況 ①OTによる指導[計3回](6/25 11/12 1/14) STによる指導[計3回](6/26 10/1 1/21)を実施した。その後指導を受けた内容を学部会で共有した。 ②校内事例検討会をコンサルテーション1回目までに小学部1回・高等部1回、1回目～2回目の期間に高等部1回実施した。</p>	<p>(評定) B</p> <p>(所見) 社会人講師(OT・ST)による指導を計画通り実施することができた。学部会で指導助言の内容を共有することにより、各学部において児童生徒の実態把握に繋がった部分もあると思われる。学校コンサルテーションでは小学部1事例、高等部1事例の実践研究を行った。事例検討会の実施回数は目標に達しなかったが、コンサルテーションを小学部の事例で学部研修として年間3回、高等部の事例で全体研修として年間2回実施したことで、校内の多くの教員に向けて共通理解を図ることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して、より専門的な指導をしてほしい。 	<p>社会人講師(OT・ST)の指導においては、昨年度の反省を踏まえ時数を減らしたことで、1回の来校につき4～5事例ずつ指導いただき、1事例あたりの指導時間が長くなりすぎないように調整することができた。ただ次年度における本校の児童生徒の実態を踏まえると、事例件数が増加する可能性が高い。よって次年度からはOT・STによる指導を年間6回、また1回あたりの指導時間を2時間として計画している。学校コンサルテーションでは、2事例の指導に関してアドバイスを受けた。実践を進めながら定期的に記録を確認し、より効果的な支援に繋がるよう手立ての見直しを繰り返し行うことで、対象となる児童生徒のスキルの向上や、行動の改善という成果に結びついた。次年度も事例研究を行うことで、教員の専門性の向上を目指す。また学部や校内全体で共通理解を図ることで、教員が連携して一貫性のある指導支援を行い、児童生徒の適切な行動を引き出すことに繋げたい。</p>

	<p>【環境課】 ICT機器を活用した教育の推進を図るために、タブレットを使った授業の促進や情報モラルに関する教育活動を進める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①児童生徒に合わせて、タブレットの使い方やZoomやMicrosoft Teamsの使い方等のスキルを身につけることができよう授業の計画実施ができる。年3回以上の授業を実施する。</p> <p>②情報モラルやネットトラブルについての学習を行い、困った時にはどうすればよいのかロールプレイやワークシートを用いて考えさせる機会を年2回以上設ける。</p> <p>③高等部生徒自身がタブレットのアップデートやパスワードの管理を行うことができるよう、指導を行う。</p> <p>活動計画</p> <p>①学校全体にタブレットを使った授業の推進を促す。職員を中心に授業計画を立て、年3回以上授業を行うようにする。</p> <p>②情報モラル教材の情報を広報したり、ネットトラブルの動画を視聴し、自分が巻き込まれたどうするか等について意見を言ったり、ワークシートに書き込んだりするようにする。長期休業中には1回ずつ行う。</p> <p>③アップデートの手順やパスワードの必要性など授業等の中で伝え指導するようにする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①ZoomやMicrosoft teamsの使い方について年3回(6・7・8月)に授業を実施した。</p> <p>②機器の管理やパスワードの重要性、SNSトラブルなどのロールプレイを行い、ワークシートを用いてそれぞれの回答を記入し、自分と相手では受け取り方が違うなどの学習を行った。(10月、12月に実施)</p> <p>③機器のアップデートやパスワード管理の重要性などの学習を行い、パスワード等をかける指導を行った。(10、12月)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①タブレットを使った授業を年3回以上行った。(temas1回、zoom1回、情報モラル1回、マイクラフト2回)</p> <p>②SNSでのトラブルやパスワード漏洩等のトラブルについて学習を行った。(長期休業前に1回ずつ実施)</p> <p>③情報モラル授業の際に、アップデートやパスワードの手順を指導した。(7、12月)</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>iPadでの情報モラルの授業やPC検定など関わる教員が計画的に学習を行った。生徒自身が卒業後、ICT機器を正しく使用するために、モラルの学習は継続して必要だと感じる。</p>	<p>・今後もICTの学習を進めてほしい。</p> <p>・情報モラル等ネットに関するトラブルへの対応力はこれから必要である。</p>	<p>教科として指導する授業がないため、連続して指導することが難しい。そのためスキルの習得が生徒によっては難しい場合がある。</p> <p>将来的にICT機器をよく使うであろう生徒には、授業時間の確保が必要かもしれない。また今年度は教員への研修計画を立てられなかったため、希望研修として次年度は要望のある内容で研修を行いたい。</p>
<p>地域とともにある学校づくり</p>	<p>【小中学部】</p> <p>①近隣の学校等と交流及び共同学習を行い、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育む。</p> <p>②作品を通じて、本校の取り組みを紹介し、理解啓発を図る。</p> <p>③校外学習を通じて、児童生徒の活動経験を広げると共に、地域への理解啓発を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①交流及び共同学習を3校(日和佐小学校・日和佐中学校・阿南支援学校)に対して、年間5回以上実施する。</p> <p>②近隣校(2カ所)に作品展示を依頼し、作品交流を行う。</p> <p>③クラス及び学部での校外学習を年間4回以上実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1交流及び共同学習の担当者同士の事前打ち合わせを行い、当日の活動や両校児童生徒の関わりがスムーズで適切に行われるようにする。</p> <p>①-2活動計画、内容及び交流の目的を学部全体で共有し、相互の学校の良さを引き出せるようにする。</p> <p>②近隣校に作品展示の依頼をし、作品交流を行う。</p> <p>③-1B&G体験活動や宿泊学習を計画・実施する。(7月)</p> <p>③-2美波町内での買い物学習を実施する。(適宜)</p> <p>③-3美波町内の公園等において、遊びの指導を行う。(後期)</p> <p>③-4お別れ遠足で、郡外(徳島市)への校外学習を計画・実施する。(2月)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①2校に対して、交流及び共同学習を3回実施した。</p> <p>日和佐小学校…1回 阿南支援学校…2回</p> <p>②日和佐小学校、阿南支援学校に交流後にお礼の手紙と児童が制作した作品を送ることができた。</p> <p>③7月11日～12日 B&G体験学習、宿泊学習 11月22日 買い物学習 11月27日 竜宮公園 1月22日 竜宮公園 を実施した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-15月に日和佐小学校にて事前打ち合わせを行った。交流までの間、電話連絡やメールでやりとりを行い準備をすすめた。</p> <p>①-2 活動内容について、ひわさ分校の企画、日和佐小学校の企画をそれぞれで考え、各学校の特色や学習してきたことを活動内容に活かすことができた。</p> <p>②日和佐小学校、阿南支援学校と交流を行い、お礼の手紙と児童が制作した作品を送ることができた。</p> <p>③-1B&G体験活動でサブやカヌーの体験を行い、宿泊学習では、町内の宿泊施設を利用し体験をすることができた。</p> <p>③-2 11月22日と1月22日に買い物学習を実施した。</p> <p>③-3 11月27日と1月22日に竜宮公園への校外学習を実施した。</p> <p>③-4 2月21日に高等部と一緒に徳島市内への遠足を実施した。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>評価指標において、近隣校3校に対して5回以上の交流及び共同学習の実施を計画していたが、相手校との日程調整の困難さ、本校中学部の在籍がなくなったことなどのため、近隣校2校に対して3回の実施となった。実施した交流においては、スムーズに行うことができた。児童同士の事前学習は難しかったが、事後学習では手紙や作品を送り合う等の間接的な交流を各校で行うことができた。</p> <p>クラス及び学部での校外学習を年間4回以上実施する計画においては、活動計画の実施状況の通り、買い物学習や遊びの指導として公園への校外学習などを実施することができた。</p>	<p>・交流については、学校の行事として全員参加ではなく、今後人数が増えたら学年だけで交流するなどしても良いかもしれない。</p> <p>・放課後の活動として、地域の中学校での活動参加も検討されている。事故や怪我の対応、参加可能な範囲等々、今後課題も出てくると思う。</p> <p>・学校の遊具をもう少し充実させてはどうか。交流校の子どもたちにとって、来校する楽しみにもなる。</p> <p>・打ち解けて交流できるかもしれない。</p>	<p>【次年度への課題】</p> <p>・交流及び共同学習を行う上で、学部としての目的や意義を今以上にしっかりと持ち、進めて行く必要がある。</p> <p>・交流校との日程の調整がスムーズに行うことができなかった。</p> <p>・阿南支援学校との交流では、クリスマス会や豆まきなど行事活動を通じて、本学部では経験することが難しい大集団での活動を経験することができた。しかし、大集団での活動であったため、友だち同士で関わる時間が少なく個に応じた交流の面で課題が残った。</p> <p>【今後の方策】</p> <p>・交流推進委員会や学部会を通じて学部としての目的や意義を確認し、共通理解を図る。</p> <p>・年度初めと年度終わりに交流校と話し合いの機会を設け、打ち合わせや反省会、行事日程の確認を行う。</p> <p>・交流の仕方や活動内容など、児童生徒の実態や目的に合った計画を立て実施する。</p> <p>・校外学習を進める上で、立案計画を早めに行う。</p>
	<p>【高等部】 地域貢献活動を通して、社会性を養い、継続して地域とのつ</p>	<p>評価指標</p> <p>①地域貢献活動を年間4回実施する。(7月、10月、12月、1月)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①地域貢献活動 薬王寺でのお接待活動 3回 プランターの設置 2回 花苗の提供 1回</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p>	<p>・地域貢献活動で花のプランターなどを無料で設置しているが、今後は注文をと</p>	<p>花のプランター設置や清掃、花苗の提供、薬王寺でのお接待等の地域貢献活動を実施することは、ひわさ分校の</p>

<p>ながりを持ち、地域への理解啓発につなげる。</p>	<p>②プランターを設置する箇所を新たに1カ所増やす。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1地域の施設（道の駅、公民館）に作業学習で栽培した花のプランターを設置する。また、お接待の際に薬王寺において清掃活動を実施する。</p> <p>①-2薬王寺において、お接待活動を行い、作業学習等で制作した作品を配布し、分校のPRを行う。</p> <p>②プランター設置を承諾していただける施設を部会で検討する。</p>	<p>②花のプランターを日和佐図書館へ新たに提供した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1道の駅等への花のプランター設置及び清掃活動を7月と12月の2回、日和佐小学校への花苗提供を1月に1回、薬王寺でのお接待活動を10月11月に3回実施することができた。</p> <p>①-2お接待活動において、作業学習等で制作した作品を配布し、新聞等にも掲載され、分校のPR活動を行うことができた。</p> <p>②部会で検討し、日和佐図書館へ提供することとなった。</p>	<p>(所見)</p> <p>花のプランター設置や清掃、薬王寺でのお接待等の地域貢献活動を実施し、これらの活動の様子が新聞で5回取り上げられ、生徒たちは達成感や成就感を味わうことができ、本校のPRとともに障がい者（児）理解啓発に繋げることができたと考える。薬王寺でのお接待活動も同じ生徒が複数回参加したことにより、自身が振り返りを通して、改善点を次の活動に生かすことができるなど教育的な効果もあったと考える。</p>	<p>って販売等をしてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカー活用事業に行く予定だったが、日程が変更されていたことを知らなかった。 	<p>ことを知ってもらえるよい機会となっている。また、生徒にとっては、お礼の言葉を直接頂けるときのもあるなど、達成感、成就感だけでなく、自己肯定感を育める貴重な機会ともなっている。今後も継続的に取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>高等部として、すでに定着している活動ではあるが、活動内容や実施場所が固定化されているといった課題もあったため、本年度はプランター提供の場所を新たに一箇所設けた。現段階では、これ以上の量的拡大は、厳しいと考えているので、今後はこれらの取組の様子を今まで以上にPRしていきたいと考える。</p>
<p>【教務課】 地域と連携した教育活動の発信と啓発に活用するため、学校案内の見直しを行う。</p>	<p>評価指標</p> <p>①学校案内の見直しを行い、新たに作成する。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1教務課会で、ひわさ分校の学校案内と他校の学校案内を見比べて、改善点を話し合う。 (6月)</p> <p>①-2見直しにあたってのタイムスケジュールを作成し、計画的にすすめる。</p> <p>①-3児童生徒が写っている写真を使用する場合は、保護者の同意を確認する。</p> <p>①-4レイアウト等を教務課会で話し合いをすすめる、決定していく。(11月・12月)</p> <p>①-5作成にあたっては、他の課とも連携してすすめる。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①9月～10月にかけて回覧を2回行い、レイアウトが完成した。当初の活動計画よりはやく仕上がった。学校HPのQRコードが令和7年度に変更するかもしれないため、印刷業者への発注は令和7年度に行う。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1課会で話し合いを行った。今までのサイズより大きい見開きA4サイズに決まった。レイアウトや内容についても検討した。</p> <p>①-27月中に児童生徒の活動写真を選ぶこと、夏季休業中に第1案を作成することとした。</p> <p>①-38月～9月の間に、保護者の写真使用についての同意を確認することができた。</p> <p>①-4最初に第1案を課員で回覧し、改善点を記入してもらった。(9月)</p> <p>①-5進路課と支援課に記載内容について相談を行い、文章を決めた。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>今までのひわさ分校学校案内と他校の学校案内を参考にして話し合った改善点を、新しいものに活かすことができた。掲載する写真の保護者同意や校内の回覧がスムーズにできたため、当初の活動計画よりはやく進めることができ、10月にデータが完成した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予算があれば、学校案内を大量に発行して、各関係機関に配布して、理解啓発を進めていくとよい。 	<p>次年度、学校HPのQRコード変更について確認し、印刷業者への発注を行う。</p> <p>課題として、今後何年ごとに学校案内の写真を入れ替えたり、レイアウトを作り変えたりするのかを検討する必要がある。</p>
<p>【支援課】 特別支援教育巡回相談員活動等を通して、地域のセンター的機能を充実させるとともに、本校の教育活動についてアピールす</p>	<p>評価指標</p> <p>①教育相談を年間2回以上実施する学校等の割合が80%以上となる。</p> <p>②公開研修会において、来校による参加者の割合が昨年度(11%)より増える。</p> <p>③本校の授業の様子をホームページにアップする(更新3回以上)ことで、教育活動の発信と啓発を図る。</p> <p>活動計画</p> <p>①地域のコーディネーターと連携し、教育相談を継続して実施することで、より効果的な支援の実践へと繋げる。</p> <p>②案内チラシの配布や地域の連携協議会等での広報を積極的に行い、来校による研修参加を呼びかける。</p> <p>③自立活動や作業学習、教科学習等の授業の様子をホームページにアップし、校内の様子が具体的に伝わるようにする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①年間2回以上実施した学校等の割合は85%(12カ所/14カ所)であった。</p> <p>②「地域まるごと専門性向上」事業公開研修会では、来校とリモートのハイブリット形式で行い、来校者19名、リモート参加者56名であった。来校による参加者の割合は25%となった。</p> <p>③ホームページにアップした回数は次の通りである。 小学部:1回(算数) 高等部:3回(国語、数学、自立活動)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①教育相談を通してコーディネーターと連携することにより、助言を行った支援方法の効果の有無を定期的に確認し、継続的な支援の実践へと繋がった。</p> <p>②公開研修会に関する案内チラシの配布や広報を、教育関係者や各関係機関に積極的に行い、来校による研修参加を呼びかけた。</p> <p>③各授業の目的や内容を記事にあげることで、ホームページを閲覧した人が学校の様子を具体的にイメージしやすいように配慮した。</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>特別支援教育巡回相談員活動を各園各校に継続的に実施することで、相談時の子どもの実態に合わせた支援の手立てを提案することができた。</p> <p>公開研修会においては、今年度は講師の方が来校された上でご講演いただいたこともあり、来校による参加者の割合が昨年度より増えた。</p> <p>またホームページの更新に関しては、小・中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援に対するニーズはたくさんあるが、特別支援学校から年間2回以上依頼を受け、継続的な教育相談を実施することができた。ただ1回の相談にあがる子どもの人数が非常に多く、一人一人の実態を細かく把握することが難しいケースもあった。より効果的な指導の手立てを提案するために、1回の相談にあげる人数を限定してもらう等の相談形式について検討する必要があると思われる。 ・保護者が相談できる機会を増やしてほしい。 ・支援学校からのお知らせ文書などを保育所や幼稚園に配布してほしい。 ・各町の地域連携協 	<p>今年度の巡回相談員活動では、多くの保育園や学校等から年間2回以上依頼を受け、継続的な教育相談を実施することができた。ただ1回の相談にあがる子どもの人数が非常に多く、一人一人の実態を細かく把握することが難しいケースもあった。より効果的な指導の手立てを提案するために、1回の相談にあげる人数を限定してもらう等の相談形式について検討する必要があると思われる。</p> <p>「地域まるごと専門性向上」事業公開研修会においては、昨年度に引き続き来校とリモートのハイブリット形式で実施したことで、多くの方に参加してもらうことができた。来校による研修参加者の割合も増加したが、より多くの地域の方に</p>

			<p>学校の学習内容（漢字、計算等）に取り組んでいる様子も含めて記事をアップすることで、一人一人の実態に応じて授業が行われているという点を発信することに繋がった。</p>	<p>議会で毎年学校紹介をしたらいいと思う。 ・現在子育てをしている世代への広報であれば、ホームページよりSNSの方が効果的ではないか。SNSの方が「#」で気軽に検索でき身近である。</p>	<p>本校に足を運んでもらうために、来校して研修参加することで得られるメリットを積極的にアピールしていきたい。 ホームページへの記事のアップに関しては、小・中学校の通常学級で取り扱っている内容についても学習しているという部分を重点的に発信した。地域の一部の方の「特別支援学校では教科的な学習は行っていない」というイメージを変えていくために、今後も継続して特別支援教育の理解啓発を行っていかねばならないと考える。</p>
<p>【生活課】 交流及び共同学習を通して、児童生徒一人一人の自立と社会参加に繋がる取り組みを推進する。</p>	<p>評価指標 ①日和佐小学校、日和佐中学校、海部高校との交流及び共同学習をそれぞれ年2回以上行う。 ②交流及び共同学習として、オンラインでの交流を年2回以上行い、児童生徒同士が安心して関わりを持つことができるような機会を設ける。</p> <p>活動計画 ①-1 交流及び共同学習のねらいや活動内容について、学校全体や学部で共通理解を図ることができるよう、職員会議や学部会での共有及び話し合う機会を年2回以上設ける。 ①-2 交流校との担当者会を年2回行う。交流校の児童生徒に対し、出前授業を行い、ひわさ分校の児童生徒について知ってもらう機会を設ける。 ② 特別活動の時間等に、オンラインで学校同士を繋ぎ、授業で制作した作品等を見せ合ったり、ポッチャをしたりする活動の中で自然にやり取りができるようにする。オンラインでの交流を通して、両校の存在を身近に感じられるようにする。</p>	<p>評価指標の達成度 ①海部高校と直接授業を通じた交流と行事(運動会)を通じた交流を年2回行った。 ②オンラインで学校同士を繋ぎ交流することは難しかったため、交流及び共同学習の事後学習として、ビデオレターを撮ったり活動写真を貼ったポスターを制作したりしたものを渡し、間接的に交流を行った。</p> <p>活動計画の実施状況 ①-1 職員会議(7月)では、今年度の交流のねらいと活動内容について共通理解を図った。学部会(7月)では、児童生徒の参加の仕方等について細かく話し合いを行った。 ①-2 海部高校のボランティア部、器楽部の生徒を対象に、ひわさ分校の児童生徒についてや学校生活全般についての出前授業を行った。 ② 今年度は、授業時間の都合上、オンラインで学校同士を繋ぐことは難しかった。そのため、事前に撮影した動画を海部高校の方に見て頂き、ひわさ分校の生徒の思いや気持ちを伝える機会を設け、行事(運動会)交流へと繋ぐことができた。</p>	<p>(評定) B</p> <p>(所見) 今年度は、交流及び共同学習として、海部高校と日和佐小学校との交流を行った。交流を行う前に、事前学習を行い、予め児童生徒について知ってもらった上で、交流を行うことができた。</p>	<p>・交流等の機会に授業などのアピールをもっとしてほしい。資料だけでは心に届きにくい。 ・文化祭のインパクトが良かった。進学先を迷っていた保護者が、文化祭に来て入学を決めた。</p>	<p>次年度への課題として、交流及び共同学習として、「交流」の側面は直接交流やビデオレターを通して目的を達成することができたが、共同学習としての側面に課題があると感じている。そのため、次年度以降は、ひわさ分校がもつ目的や目標を交流推進委員会等で整理・検討し、交流校の交流担当の方と事前に打ち合わせを行う必要があると感じている。</p>

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

※様式はA3で作成しています。本様式を使用する場合は、PDFファイルにするときに、縮小印刷でA4単票・横方向にしてください。